

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470500513		
法人名	社会福祉法人 気仙沼市社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム桑の実	ユニット名	
所在地	宮城県気仙沼市唐桑町只越346-19		
自己評価作成日	令和05年09月15日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和5年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

気仙沼市の指定管理施設として、私たち気仙沼市社会福祉協議会が運営しているグループホーム桑の実は、風光明媚な唐桑町福祉の里内にあり、四季折々の景色を楽しむことのできる恵まれた環境にあります。隣接する福祉施設や、地域の方々、各ボランティア団体の皆様の協力を頂きながら、入居者が生き生きと過ごせる環境づくりに努めております。また、地元の小野医院様には各種予防接種を施設内での実施に協力いただき、佐藤歯科医院様には訪問診療をしていただくことで、入居者の健康の維持・増進ができております。新型コロナウイルス感染症は第5類と分類されても、依然消息する様子はないようですが、感染症対策に気を配り、入居者が安心して、住み慣れた地域で生活を継続できるように事業運営を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは広田湾に面する唐桑町只越の小高い丘の上であり、唐桑福祉の里の一角に位置し、特養ホームや障がい者施設、幼稚園等が隣接している。近くには住宅地もあり、畑の作業や草刈りを手伝ってくれる方もいて、地域の方に支えられている。入居者が自宅と同じ感覚で過ごせる様にとの職員の配慮から、チェックリストよりも行動の見守りを優先している。食事の準備や片付けも入居者と一緒で、朝の掃除も職員と入居者が作業分担して一緒にしている。隣りの幼稚園との交流では、勤労感謝の日に感謝状を頂いたり、散歩等でホームに立ち寄りなどの交流が来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム 桑の実 )「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を継続し、利用する方々の「いつまでも住み慣れた地域で安心して生活したい」という気持ちを職員全員がよく理解し、入居しても自宅と同じような生活が出来るように必要な支援を考え、実践につなげています。	「入居者の思いに寄り添い笑顔溢れる施設」の理念を2カ所に掲示して確認し、笑顔で接する様にしている。入居前の事を聞きながら自宅からの延長と考え、自宅生活の継続が出来る様に支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方々や近隣の福祉施設との関わりや、各ボランティア団体の支援をうけて交流が出来る。季節の行事に、隣接した幼稚園の子供たちを招いて交流しています。	町内会には入っていないが、地域情報は社協を通して来る事が多い。ボランティア団体コスモス会が、畑やイベントの手伝いに来てくれる。ホームで鯉のぼりを掲げる頃になると、幼稚園児が立ち寄ってくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各研修で得た知識を活用し、地域の方からの相談や問い合わせに、助言を行っています。地域の福祉祭りには、入居者様のレクでの作品展示や事業所紹介などで情報提供を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では経営状況や入居者の生活の様子を報告しています。感染症対策でなかなか集まれません。施設職員の感染症対策や運営に関して、委員の方々からの感謝の言葉が職員のモチベーションアップに繋がっています。	集まらない時は郵送している。家族意見は電話で、市役所や地域包括等はファックスで意見が来る。家族やボランティア団体の手伝いで、庭の草刈りや畑の手入れをして貰った報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染症や熱中症の対策で、空調設備について、現状を市に相談したところ、入居者が集うフロアに大型エアコンを設置していただきました。また、担当課には介護事故の対応や環境づくり、感染症対策などに助言をいただいています。	ホームの設置者が市なので、高齢介護課と密接な連携をしている。看護師によるゾーニング指導でエアコン設置が実現した。市からは、基礎研修やリーダー研修の情報があり、出来るだけ参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の中で身体拘束についての研修を行い、職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	研修報告は少ないが、毎月のケア会議と職員会議で、身体拘束廃止の時間を作って研修している。参加出来ない職員は報告書を見て確認している。転倒事故の後に手摺を設置したところ、安全に生活している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については職員会議内で研修を重ねています。虐待は施設内にとどまらず、発見した際には関係機関に通報義務があることと認識し、また虐待が起きないように話し合い、防止に努めています。	毎月のケア会議の中で、虐待防止についての研修をしている。県の高齢者権利擁護推進研修の参加等でも虐待についての認識を深めている。センサーマット使用では、期間を決めて必要性の判断をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について会議で話し合い、必要であれば地域包括や市の担当課に相談し、制度利用につなげることにしています。以前の成年後見制度を利用されていた入居者様がいたので、その経験を生かせるようにと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約、退居手続き、重要事項の変更などがある時には、契約者に十分な説明を行い、同意書を作成しています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催したときには、利用者のご家族様にも資料を配布し、広く意見をいただけるようにしています。また、どのように反映したかを推進会議の議事録に記し、お伝えしています。	意見箱に意見は入ってない。推進会議で法人より、料金改定の要請があったが家族は受け入れた。リハパンの利用に関して、本人の好きな様にさせて欲しいとの意見があった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的に行っているスタッフ会議やこれからの働き方を考える法人内で設置したワーキング会議の中で意見を聞きました。施設の環境整備や熱中症対策の意見があり、市に修繕要望し、空調設備(エアコン)を新設していただきました。	木造の施設で老朽化している事を、職員意見として市に要請している。入居者の食事中に、嘔吐し易い方は刻み食にする等の対応をしている。勤務シフトの要望は、希望休で配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体の取り組みとして、働き方改革につながるプロジェクトチームを発足し、職場環境の整備に取り組んでいる。また、資格取得のための支援や処遇改善を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護資格の取得や、認知症ケア研修やサービスの質向上のための研修に出来る限り参加しています。また、内部研修で認知症ケアを学んだり、各職員が入居者の担当を持つことで、職員一人一人のスキルアップにつなげています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会から情報取得を行ったり、近隣のグループホームと情報交換はしている。法人内で他事業所との交換研修などを予定しています。	グループホーム協議会に入り、研修の案内等はメールを使っている。更に、協議会の気仙沼地区で合同避難訓練をし、備蓄等の情報交換や防災関係の会議をしている。法人内施設との交流は今後進めたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前からご本人様やご家族様と面談を行ったり、担当のケアマネジャーから情報を収集し、生活歴や禁忌事項を職員に伝え、入居を迎えています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申請の段階から、ご家族様の思いに寄り添い傾聴することで、ご家族様に安心して相談していただけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族様の要望に耳を傾け、どうすれば自宅での生活をそのまま継続できるかを入居前後のケア会議等で話し合い、他のサービス利用も視野に入れて対応できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の生活の知恵を引き出し、ご本人様を支えるだけでなく、時には教えを乞うたり、協力し合ったりできる場面の創出を心掛け、ゆっくりと時間をかけて、信頼関係が出来るように努めています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族様の関係が途切れないように、定期的な通院や季節の衣類、買い物や外食などをご家族様にお願いしています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域資源とのつながりや想いのある場所などを知り、時にはドライブなどで訪問しています。また、主治医やなじみの美容院などに、継続し通えるようにご家族様に協力を仰いでいます。	通院や美容院への外出は家族対応で、いつでも出かけられるとの安心感になっている。馴染みの場所にはドライブ外出しているが、堤防の嵩上げで海が見えなくなった。墓参りや親戚の葬儀に参列することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居の際に知り合いがいない方でも、性別や年齢、性格などを考慮して席を設定し、時には職員が間に立ち、孤立しないように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方やご家族様に相談を受けた時には、出来る限りの支援が出来るように多職種と連携し、必要なサービスに繋がるように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共に生活することで、ご本人様の様子をよく観察し、意向や意思を読み取れるように努めています。ケア会議等で職員が感じたことを持ち寄り、出来る限りご本人様の意向に沿えるような支援が出来るように話し合い、実践しています。	入居前からの習慣で、トイレットペーパーを多く使う方は、居室にペーパーホルダーを付けた。お茶や珈琲等の好みを把握し、買って準備している。意思を伝えられない方は、傾聴や表情で読み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一緒に生活することで知り得た情報は、個々の生活記録に記入しています。またケア会議などでその情報を共有することでより良いサービスが提供できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前調査でつかめなかったことも、一緒に生活する中で把握したり、ご家族様から追加の情報をいただいたりしています。気付きはケア会議等を通じ、職員間で共有しています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの短期目標に、できたかどうかのチェックを毎日行い、それを基にケア会議で話し合い、ご本人様の状態にあったケアプランが作成できるように努めています。	毎月のケア会議で出された目標に掲げた事が、出来たかどうかをチェック表で確認している。体操とレクリエーション活動や、献立をホワイトボードに入居者が書く事も日課とする事を計画書に盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の食事・水分の摂取量・排泄の様子、バイタル測定値、服薬状況、入浴状況、生活の様子などを記録し、ご本人様の状態の把握に努めています。以前の記録と見比べ、変化を見つけ、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関係機関や地域の資源を知り、最大限活用することで、入居者一人一人のニーズに対応できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により地域ボランティアとの直接的なつながりはあまり持てませんでしたが、畑や苑庭の整備を地域のボランティアにお願いし、収穫した野菜などを職員と入居者が一緒に調理することで、地場の食を楽しんでいます。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医との関係を保てるように、通院時には苑での様子や体の状態等を文章に起こし、医師に出来る限りの情報提供をしています。	協力医はコロナやインフルエンザ予防接種を、ホームでしてくれる。かかりつけ医は協力医が2人で、以前からの継続が7人である。通院時に、情報を家族が持参している。訪問看護師と契約を結んでいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問に合わせて、各入居者様の担当職員が体の状態などを記録し、訪問看護師に伝え、必要な時には医療に繋げるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急搬送が必要な時には職員が同行し、その時の様子、状態、既往歴、服用中の薬等必要な情報を医師や病棟の看護師に伝えています。退院の際には病棟看護師より、情報提供書をいただいています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の段階で、ご家族様と重度化や終末期の対応について、文書を取り交わし、重度化したときや終末期の対応を確認しています。必要な時には地域の協力医や訪問看護師に相談し、助言をいただいています。	近年での看取りは無いが、家族とは入居時とその都度確認している。かかりつけ医と相談して、殆ど病院に入院対応としている。訪問看護師の対応があり、急変時は救急車対応としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを備えています。また、実践力を養うために、消防署の協力を得て、事故時の初期対応訓練を行っています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の際には消防職員の立ち合いのもと、夜間の火災を想定し、職員一人ひとりで避難誘導が出来るように訓練を重ねています。また、近隣の施設と協力関係を結び、万が一に備えています。	年2回の避難訓練には、コスモス会や運営推進員の参加がある。近隣の特養ホーム唐桑園と相互協力の関係で、非常用物資の相互融通をしている。日中はさんさん館に逃げる訓練をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア会議で認知症についてや、認知症を持った方への対応や関わり方の研修をかさねて、実践に役立てています。	呼び方は苗字または名前にさん付けである。トイレ誘導時の声掛け等に配慮している。研修では高齢者と話す時の心掛けで、否定しない事や、単語での会話について学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いに寄り添うことで、意思を読み取り、出来る限り意向に沿えるケアを心掛けています。入居者様が日常生活の中で「～がしたい」という思いを大事に支援を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを念頭に置き、それぞれの生活のペースを崩すことなく、それぞれの希望に合った生活が出来るような支援が出来るように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えの時期には、ご家族様の協力により、季節に合った服をご自宅から持参いただき、ご本人様の好みものを選んで着けていただいています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の生育・手入れ・収穫から、調理や片付けの各入居者様が得意なことを把握し携わっていただくことで、ただ食べるだけではなく、食事をするまで、食べる、食べてからと、一連の流れを楽しんでいただけるように努めています。	下ごしらえや盛付け等入居者が手伝っている。ひな祭りはちらし寿司等の行事食や誕生日はその方の好きな物を取り入れている。地域の方から頂いた海の幸、カニや魚等はその日の食事になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の食事量・水分摂取量・排泄回数チェックにより、体調や様子を注意深く観察しています。お茶だけではなく、コーヒーや紅茶など好みのもも提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣となっている方には最低限の声がけを、難しい方には付き添い、歯磨きや入れ歯の洗浄・保管等を一緒に行い、口腔ケアに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り、自発的な行動による排泄を見守っています。失敗したときにはお手伝いもしますが、排泄の為の行動が継続できるように、最小限の支援に努めています。	チェック表もあって確認してるが、自発行動での見守りを優先している。部屋の出入りの時や外出前に声がけて誘導する。夜間は時間で起こすのではなく、それぞれのタイミングで支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれの排泄記録により、状態の把握に努め、健康状態への影響に注視しています。水分補給や運動不足に気を配り、必要な時には医師に相談し、薬を処方していただき、個々の身体に合わせて排便コントロールをしています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	ご本人様の希望を確認し、出来る限り要望に沿う形で入浴していただいています。入浴にも季節感が感じられるように、その時期には菖蒲湯・ゆず湯などを楽しんでいただけるように努めています。	一日おきの入浴にしているが、毎日入浴の希望もあり対応している。季節湯の他にも入浴剤の希望もあり使っている。入浴拒否もあるが、次の日に入っている。職員との会話は、昔の事や海に関する話が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の環境を整え、それぞれの生活習慣に配慮し、プライベート空間であることを理解することで、ご本人様が安心して生活が出来る、心休める場所になるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの身体の状態をよく理解し、どんな薬が処方されているか、追加や停止するときには体にどのような変化があるか、経過を注意深く観察しご家族様や医師、訪問看護師に情報提供を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの趣味や趣向を把握し、特技が発揮できる場面を作り、「役に立つ」実感が持てるように支援をしています。それぞれの誕生日には好きな食べ物を提供し、他者の誕生日も含めて楽しみにしていただけるように努めています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により地域の感染状況に注意しながらですが、季節ごとの外出を楽しんでいます。ご家族様と通院等で外出する際には、帰りに馴染みの美容院に寄っていただいたり、ご家族様との外食を楽しんでいただいております。	遠くの親戚が来て、家族と外食をする事もある。春は花見で秋は紅葉とドライブ外出で季節を感じている。初詣は葉山神社や陸前高田の竹駒神社等が多い。定番の行き先は橋の開通で大島が多い。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からご本人様のお小遣いを預かり、ご本人様の希望する買い物をしたり、苑内で行う訪問理容を利用していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望がある場合にはご家族様と電話で話したり、身内や知人から手紙をいただいた時には、お礼の電話をかけて、お互いの近況などを話してもらっています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用する空間は居心地がよくなるように、入居者と職員が日課として、毎朝一緒に掃除を行っています。季節感を味わえるように、レクで作成したものを展示し、皆様が楽しめる、居心地よく過ごせる空間づくりに努めています。	日課の掃除は、ほぼ全員が出来、それぞれ幕やモップ掛け等の役割分担をしている。毎月変更している食堂の展示は、ハロウィンになっている。ドライブ外出の写真や塗り絵等を貼っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用する空間の中でも、それぞれが落ち着ける場所づくりを考えています。和室の掘り炬燵を利用して頂いたり、フロアにソファを配置して工夫をしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、ご自宅で使用していたベッドやタンス等を持ち込んでいただいています。ご本人様の趣味のものを飾り、ご本人様にとって居心地がよく、安心できる居室づくりに努めています。	ホームの備品はエアコンや洗面台、押入れとなっており、ベッドは持ち込みになっている。1人は布団を使っている。編み物や写経をしている方もいる。位牌を置いてる方や携帯電話を使っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「分かりやすく、安全に」を念頭に置き、入居者それぞれの身体の状態や生活動線を考え、共用空間や居室で、それがあれば(手すり等)自身で行えるように、工夫を行っています。		